



「脚下照顧」



西郷中のトイレのスリッパは、いつ見ても出船にそろっています。トイレを見るたび「素晴らしい」と感動し、禅寺の玄関にある「脚下照顧（きゃっかしょうこ）」という言葉思い出します。この言葉は、「自分の足元を見よ」「自分の行いを見よ」という意味です。

誰かのはきものが、みだれていたら、黙ってそっとそろえてあげられるような人が、本当に思いやりのある人ではないかと思います。そんな人がひとりでも増えれば、そんな子どもがたくさん育てば世の中は、もっともっと素敵なものになるのではないでしょうか。そんな気持ちにさせてくれる西郷中の子どもたちに感謝したいと思います。

最後に、長野県円福寺の住職藤本 幸邦さんの詩を紹介いたします。

はきものを そろえると 心もそろろう
心がそろうと はきものもそろろう

ぬぐとときに そろえておくと
はくとときに 心がみだれない

だれかが みだしておいたら
だまって そろえておいてあげよう

そうすればきっと
世界中の 人の心も そろうでしょう

「反抗期」って何?

人生には二度の反抗期があるといわれています。乳幼児期と、中学前後の思春期です。



始まりや終わりの時期、また反抗期の長さには個人差があり、中には目立つような反抗的態度を見せない子どももいます。

今のところ、学校でそういった態度を見聞きしたことはありません。ご家庭ではどうでしょうか。

思春期の子どもは身体的に目覚ましい成長を遂げます。急激な体の成長や変化に心の成長が追いつかないのです。子どもたちは、体と心のアンバランスに戸惑い、様々な不安やストレスを抱えた結果、周囲に反抗的な態度をとります。例えば、

- ・ 身長は親を追い越しそうだが、腕力ではかなわない。
- ・ 親の若い頃や他の子どもと比較される。
- ・ 自分は大人なのか？それともまだ子どもなのか？
- ・ 親は都合に合わせて「もう大人でしょ!」と「まだ子どもなんだから」を使い分ける。

さらに、中学校に入り先輩後輩といった上下関係があることを学びます。思春期の子どもたちは様々な矛盾や理不尽さを感じながら、日々多種多様なストレスを抱え込んでいます。反抗期に見せる反発は、不安・ストレス・不満・矛盾・自己主張など「やり場のない思い」が、態度となってあらわれたものです。

大切なのは、子どもへの愛情を自然に感じさせる環境をつくることだと思います。

疲れた体や心を休ませる場所は、ちゃんとここにあるんだと、気持ちや言葉で伝えてあげることが情緒を安定させることにつながります。

また、小さなことでも褒め、感謝の言葉を伝えることも大切だと思います。

「うるせい!」と反発しつつも、完全に放ったらかしにすると、逆に寂しかったり不安を感じたりします。

適度な距離感を保ち、気持ちや言葉を伝えながら、関わり続けることがとても大切です。学校でもお子様のよりよい成長を支えて参ります。何かご心配なことがありましたらいつでもお知らせください。

授業探訪 (音楽)

第2回は、25日(木)4校時の1年生音楽です。

学習目標

- ① 歌詞の内容や曲想を感じ取って歌う。
- ② 言葉の抑揚とメロディの関わりを生かして歌う。

という目標で、「夏の思い出」を歌いました。とて

夏がくれば思い出す
はるかな尾瀬 遠い空
霧のなかにうかびくる
やさしい影 野の小径(こみち)
水芭蕉の花が咲いている
夢見て咲いている水のほとり
石楠花(しゃくなげ)色にたそがれる
はるかな尾瀬 遠い空

も蒸し暑かったのですが、最後の全体合唱では、水芭蕉の花が咲き自然あふれる尾瀬ヶ原の雄大な風景が目につかびました。

1年生の子どもたちのさわやかでやさしい合唱に癒やされました。

